

# 認証評価における責任者の役割 ～学長に課された二つの役割～

新潟医療福祉大学  
学長 山本正治

# 講演のめあて

**めあて**：認証評価と関連して、学長に課された二つの役割について私見を述べたい。

**I. 直近の問題**：認証評価準備に関わることで、“より良い”【適合】評価を得ること。（受験生にとって価値ある情報。高額な“福袋”をブランドネームだけで買う人は少なくなった。評価は“学長評価”でもある。）

**II. 2018年問題**：認証評価に関わることは2018年問題の解決に役立つ。（2018年問題は教学を代表する学長の大きな責務。学長は問題を解決して、大学史に“名を残す”のも痛快である。）

# バックグラウンド(1)

- 昭43年5月：卒業(インターン制度廃止)
- 昭44～46年：アメリカ研修(社会人教育)
- 平12～18年：医学部長(自己点検・外部評価、自己点検評価疲れ(時間のムダ?)⇒ヤル気の出る自己点検方式！)
- 平22年：学長(将来計画を策定、独自の自己点検評価を実施)
- 平24年5月：第1回外部評価準備委員会(認証評価用の「自己点検評価書」策定準備を開始)

# バックグラウンド(2)

- 平13年：開学(2学部 5学科、約300名)
- 平22年：将来計画(2010-2020年の長期目標：超高齢社会及びグローバル化社会のニーズに応えるため、質が保証されたQOLサポーターとなる在学生5000名の大学とする。)
- 平25年：インタビュー(大学経営の冬の時代、かつ恵まれた立地条件でないにもかかわらず、これほど成長する秘訣はどこにあるのか)→フォロワーシップを意識(上司のリーダーシップを補完する概念で、部下(フォロワー)が自主的な判断や行動で上司を支え、組織における成果の最大化を図る)
- 平26年：開学14年(4学部11学科、約3700名)

# I. 直近の問題(1)

## 1. 認証評価で留意したこと。

- 1) 学長直属「将来計画機構」、「自己点検評価委」、「外部評価準備委」(委員長は学長指名、将来計画策定は学長リーダーシップ(耐力・胆力)、**自己点検委は前回指摘事項も点検評価**、外部評価委は前二者のデータ活用して「評価書」を作成、**大学独自の基準設定及び説明が最重要**)。
- 2) 自己点検のヤル気創出(夢実現の到達度評価として過去を振り返る重要性を説明、**教授会メンバーには常時情報共有により一体感・フォロワーシップを醸成**)。
- 3) 「評価書」原案を学長が加筆修正(改善すべき点を審査員にご指摘いただく⇒私大では実現性高い)。

# I. 直近の問題(2)

## 2. 対応できる者は学長しかいない。

1) 審査は他大学学長が中心⇒学長同士は価値観を共有、対応できる者は学長しかいない。

2) 審査は「自己点検評価書」⇒企画・実施・自己評価できる者は学長しかいない。

3) 認証評価は“学長評価”⇒責任を果たした後  
に得られる自己実現の喜び！ 教職員への感謝の気持ち！

# I. 直近の問題(3)

3. **学長のリーダーシップが重要である。**
- 1) 認証評価の準備・申請・審査を他人まかせにしない。“審査員の視点で”、助言を行う。
  - 2) 学長が率先して点検評価を実施し、“審査員の視点で”、「自己点検評価書」をまとめておく。
  - 3) 準備段階から関係部署と情報共有を図る。  
審査委員の質問を理解し、質問を振り分けなければならないから。

# I. まとめ



- 一部抜粋:「学長は、将来計画などに対する各部門の進捗状況を十分に認識し、目標達成に向けての助言や見直しを促すことでPDCAサイクルを構築している。」→学長として評価された！
- 皆さまへ:学長リーダーシップのもと、“より良い”【適合】評価を受けて頂きたい！



# Ⅱ. 2018年問題(1)

## 1. 2018年問題とは

1) 意味: 2018年を境に18歳人口大幅減少、定員充足困難、大学存続危機⇒入学定員500人の大学100校に影響!

2) 決断: ローカル化&個性化? or グローバル化?

{国際化: 国々同士が国家としての原理原則を尊重しあいながら交流を深めること。グローバル化: 国境の概念がなく世界が単一の原則(グローバルスタンダード)で機能する社会に進むこと。}

## 2. 日本の“内憂外患”への対応

1) 内憂: 人口減少、超高齢社会、格差拡大⇒2018年問題

2) 外患: グローバル化⇒人材育成、名門大学日本進出?

# Ⅱ. 2018年問題(2)

## 3. 大学の生き残り対策

- 1) 学長が、将来計画策定、自己点検評価、認証評価に関する一連のプロセスを経験することは、大学の生き残りに役立つ。
- 2) 大学の質保証として、認証評価は欠かせない。認証評価結果は、世界で通用する大学のグローバルスタンダードとして、将来重要性がさらに増すことは確実である。

# II. まとめ

## ***Certificate of Accreditation***

*Niigata University of  
Health and Welfare*

***This is to certify that the  
above university has  
demonstrated satisfactory  
compliance with the  
standards of the Japan  
Institution for Higher  
Education Evaluation.***

*March 11, 2014*

*Japan Institution for Higher  
Education Evaluation  
President Toshiji Kuroda*

- **認証評価は大学の質保証である。認証評価は2018年問題への対策として役立つだけでなく、将来世界で通用するグローバルスタンダードとして重要となる。**
- **学長のリーダーシップで大学の将来をも見据えて、認証評価の準備に取り組んでいただければ幸いです。**

# 全体のまとめ

## ◎私たちの経験から言えること

1. 将来計画の策定が基本出発点である(信頼できる担当者指名)。
2. 将来計画には大学独自の基準設定を行っておく。
3. 定期的な自己点検・自己評価を行っておく。
4. 認証評価のための計画的準備開始(約1年5ヵ月前)
5. **すべては学長のリーダーシップにかかっている。**(ご欠席の場合、事務局長様はこの旨を学長にお伝え下さい。)

## ◎謝辞等

1. 「日本高等教育評価機構」関係者のお心遣いに感謝
2. 参考資料:リクルートカレッジマネジメント誌、2013年179号、2012年175号.